

令和6年度

富田中学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

～今を生き、未来を創る～
 私たちの幸せ（ウェルビーイング）のために
 自ら考え選択し、責任をもって行動できる生徒の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 森岡 教諭 郡 教諭	委員 総括 松尾 校長 総括補佐 松谷 副校長 藤川 教頭 教務主任・研修主任 粟田 教諭・藤原 指導教諭	1学年主任 藤原 指導教諭 2学年主任 田川 教諭 3学年主任 阿部 教諭 特別支援コーディネーター 森田 教諭
--------------------------	--	--

校長

松尾 真千子

次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力向上を推進する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ 学校評価アンケートの結果から、約9割の生徒が授業に対してわかりやすさを感じていることが判明した。 ● 学力の二極化が生じており、すべての生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得しているとは言い難い。	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する。	・学習指導要領や徳島県教育委員会が公表している支援策を中心に、各教科で目指す子供の姿を正確に理解する。 ・授業の中に「すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント（国語力向上タスクフォースの提案から）」で示された視点や授業のユニバーサルデザインを取り入れ、障壁を除く工夫をする。		・学校評価アンケートの結果から、昨年度と同様に、約9割の生徒が授業に対してわかりやすさを感じていることが判明した。 ・クイズアプリにより、基礎的・基本的な知識の確認を行った。	・各教科で工夫を続け、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・「義務教育の在り方ワーキンググループ：審議まとめ」などを参考にし、令和の日本型学校教育が目指す方向性を理解する。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ 学習アンケートの結果から、約9割の生徒が、対話や自己表現を必要とする活動に対して積極的に取り組んだり、活動を通して新たな見方・考え方を得たりしていることが判明した。 ● 学年によって「生徒も教職員もみんなでファシリテーターになろう！」プロジェクトの取組に差がある。	対話を通して仲間と協働し、共に問題発見・課題解決を図る。	・全学年で足並みをそろえて「生徒も教職員もみんなでファシリテーターになろう！」プロジェクト2を遂行するために、各学年のファシリテーション推進員を中心に、すべての教育活動でファシリテーションの浸透を図る。 ・学力向上推進員を中心に、年間を通して授業を公開する。また、教育DX推進事業と関連させ、すべての教職員が各学期に最低1回はホストになり、タブレット端末を活用した授業実践を公開する。	・「教育DX」×「ファシリテーション」の提案に向けて、生徒も教職員もデジタル版ホワイトボード・ミーティング®に取り組む。 ・「富田中ICT活用モデル」を作成する。	・既存プロジェクトと新規事業を融合させたことで、時と場合に応じて、アナログ版とデジタル版を使い分けることができる環境が整った。 ・すべての教職員で「富田中ICT活用モデル」を作成し、最終的に37モデルが集まった。	・「教育DX」×「ファシリテーション」という新たな校内文化が、教職員の異動により継承されないリスクを防ぐ必要がある。そこで、在校生から新入生へバトンをつなぐ教育システムを構築し、持続可能な取組へと発展させる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ 学校評価アンケートの結果から、約9割の生徒がまじめに授業に取り組んでいることが判明した。 ● 学習アンケートでは、約6割の生徒が、授業で最も多い活動は「教師の説明を聞くこと」と回答した。	自分なりに学ぶ意義を見いだしながら、自ら考え選択し、責任をもって行動する。	・すべての教科で学ぶ意義を考えたり共有したりする機会を設定し、生徒も教職員も学びの原点に立ち返る。 ・授業研修の中で音声ノイズを減らすトレーニングや展開部を中心とした模擬授業などを行い、教職員一人一人の授業力向上を図る。		・国語科アンケートでは、「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問項目に対して、第1学年のすべての生徒が肯定的な回答を示した。	・授業開きの際には、各教科で学ぶ意義をテーマにしたペアトークを実施する。定期的に学びの原点に立ち返ることで、生徒にとっての教科の必要性が高まるということが想定される。

令和6年度 学力向上ロードマップ

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
学力向上検討委員会		★学力向上実行プラン作成 ・校内での共通理解 ・学校HPへのプラン掲載 ・学習アンケート作成	アンケート実施	手引き配布	「自由進度学習」の導入	アンケート実施	調査結果の分析・取組の検証	プランの見直し 「報告書」送付		アンケート実施	学校評価アンケート・教員アンケート実施	タスクフォース等活用状況報告	実行プラン完成	分析・検証を経たプランの公表	前年度の実績を踏まえた新体制での実行プラン作成
研究テーマに沿った取組	次年度の取組に向けた情報整理・構想立案	学習状況調査 全国学力テスト ステップアップ PTC 家庭学習のすすめ PTA参観日	ステップアップ 推進員研修会 PTC 家庭学習のすすめ 全国学調結果公表	校内研修 よつばタイム 各教科授業研究会 研究授業・協議 相互授業参観	調査結果の分析・取組の検証	校内研修 よつばタイム 各教科授業研究会 研究授業・協議 相互授業参観	調査結果の分析・取組の検証	中間見直しを受けた授業改善の立案	授業づくり 教育DX公開授業 PTC 家庭学習の充実	校内研修 よつばタイム 各教科授業研究会 研究授業・協議 相互授業参観	学校評価のデータ等による取組の検証	相互授業参観 研究授業・協議 各教科授業研究会 よつばタイム 校内研修	よつばタイム 校内研修	次年度の取組に向けた情報整理・構想立案	